

株式会社TKC

顧客の事業活動をノンストップ支援
最高レベルの業務継続性を確保

会計事務所と地方公共団体に情報サービスを提供するTKCは、基幹システムの再構築を進めている。ポイントは、アプリケーションの開発・実行環境をマイクロソフトの.NET Frameworkに統一することと、顧客の事業活動を24時間365日体制で支援するための業務継続性を実現することだ。これらの要件を満たすため、富士通の高信頼サーバ「PRIMEQUEST 540」を選択した。

TKCは、会計事務所およびその関与先企業、地方公共団体に特化した情報処理サービスを展開している。会計事務所とその関与先である中小企業（57万5000社）向けに会計・税務処理サービスを、また中堅・大企業向けには連結会計・連結納税処理サービスを提供している。

一方、地方公共団体向けには、住民情報や税務情報といった基幹系システムを開発・提供するほか、2002年4月からは各種ASPサービスも展開している。

現在、会計事務所およびその関与先企業向けの会計処理のASPサービスは、全国9カ所の「TKC統合情報センター」に設置したメインフレームを中心に、100台を超えるIAサーバで提供している。年間に処理するデータは30億件を超える。

また税務処理のASPサービスは、栃木県内の「TKCインターネット・サービスセンター（TISC）」で運用している。2003年6月からは会計データをTISCに転送して保管し、過去10年間のデータを自由に検索できるサービスも開始した。



株式会社TKC
専務取締役
地方公共団体事業部 事業部長

角 一幸氏

TKCは、これら基幹系システムを富士通の高信頼オープン・サーバ「PRIMEQUEST」で刷新する計画で、既に2006年6月には、地方公共団体向けの各種ASPサービスをPRIMEQUESTに移行し運用を開始した。「今後2年間でASPサービスの契約数を2倍近くに増やす目標を立てていますが、そのための拡張性は十分に確保しています」と、角一幸専務取締役地方公共団体事業部事業部長は語る。

会計・税務処理サービスに関しても、順次PRIMEQUESTへ移行する計画だ。その



株式会社TKC
栃木本社 社長室部長

辻田 進氏

際、大量データを処理できる性能と高い信頼性を確保できるかがポイントとなる。この点について、辻田進 栃木本社社長室部長は「2005年の夏から『PRIMEQUEST評価委員会』を社内を設置して検討を進めてきました。その結果、性能、信頼性、そして拡張性についても高いレベルを確保できるものとみています。その上、TCO面でも有利となり、

ユーザープロフィール

株式会社TKC

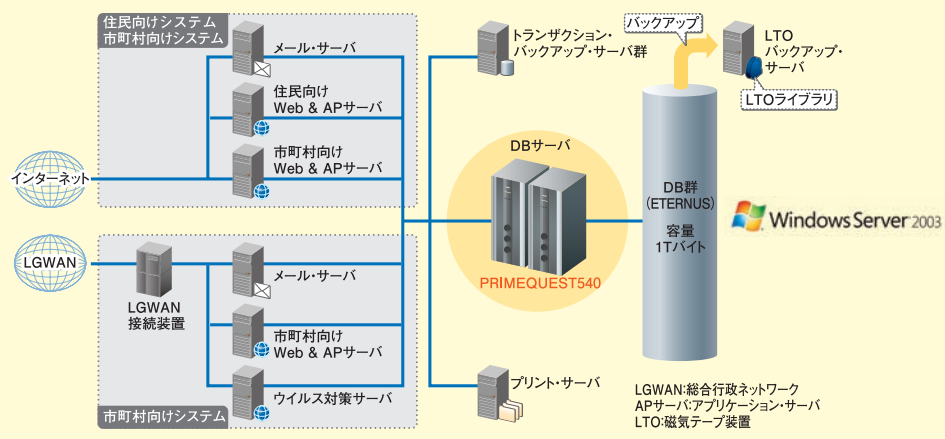
設立：1966年10月
代表：飯塚真玄
所在地：宇都宮市鶴田町1758
従業員数：2046人（2006年4月1日現在）
URL：http://www.tkc.co.jp/



TKCの「TKCインターネット・サービスセンター（TISC）」

図 地方公共団体向けASPサービスのシステム構成図

データベース・サーバにクラスタ構成のPRIMEQUEST 540を採用した



コストを現状維持と仮定した場合、さらに付加価値の高いサービスを構築できる可能性があります」と検討結果を語る。

次期システムはすべてC#で開発 高信頼な実行環境作りが不可欠に

TKCが一連の次期基幹系システムの構想を練っていたのは2002年のこと。テーマは「開発環境の統一」だった。

角専務はこう振り返る。「メインフレームでの開発言語はCOBOLが中心でした。これがWindowsシステムとなってDelphiやMRDB、PowerAEなどさまざまな開発ツールが社内で活用されるようになりました。それぞれに良い点はありましたが、複数の開発言語の併存により、開発の体制や効率の面で問題が生じていました」。

顧客(関与先企業や市町村)のシステムはほとんどがWindowsベースなので、それらとのシステム連携を考えると、次期開発環境はWindowsが優勢だった。「そこで、主要システムの開発基盤は.NET Framework、開発言語はC#に統一することを決定しました」(角専務)。ただし、「2002年当時、Windowsで基幹系システムを稼働させるのは、ハード、OSともに不安がありました」(辻田部長)。

この状況に転機が訪れたのは、2003年末のことだった。富士通からメインフレームの戦略を聞く機会があり、このとき角専務や辻田部長らは、富士通が「64ビットWindowsも動作する基幹系サーバ」(現在のPRIMEQUEST)を開発中であることを知った。「これで.NET Frameworkが動くこと、さらに富士通がメインフレームで培った信頼性や拡張性、

運用技術などをすべて注入したサーバになると聞いて、これはわが社にとってチャンスだと思いました」と角専務は話す。

市町村向けASPサービスを先行稼働 高い安全性を利用者にアピール

TKCでは、現在、地方公共団体向けに「電子申請・届出」「公共施設案内・予約」など9種類のASPサービスを展開している。2008年1月提供予定の「地方税電子申告受付支援システム(仮称)」も開発中である。これらはLGWAN-ASPとしても提供中。

そうした中、2006年夏、TKCに“追い風”が吹いた。総務省による「電子自治体オンライン利用促進指針」の公表である。これを受けて、今後、住民や企業の利便性向上、業務の簡素化・効率化の点で効果が期待される各種申請・届出等手続のオンライン化が急速に進むと見られる。そこでTKCは2006年6月、ASPサービスの運用環境を従来のWindowsサーバからPRIMEQUESTへ切り替えた。

「市町村が24時間365日、住民や企業へ便利で安全・安定したサービスを実現できるよう、それを支える当社としても一層高い業務継続性を確保する必要が出てきました」(角専務)。

新システムでは、各種サーバやネットワークなどをすべて冗長化。特に信頼性を高めたいデータベース(DB)サーバはPRIMEQUESTで構築した(図)。4個のItanium 2、32Gバイトのメモリを搭載したシステム・ボードを、2台のPRIMEQUEST 540の筐体にそれぞれ搭載している。OSには大規模・高信頼システム向けのWindows Server 2003、DBには最新版のSQL Server 2005を採用した。

PRIMEQUEST単体でも、メモリなど主要なハードを二重化する「システムミラー機構」によって信頼性が高められている。それに加えてTKCは最高レベルの業務継続性を求めて、クラスタ構成を選択、「申請・届出等手続のオンライン化を視野に入れた場合、『こんなに高い安全性を確保しています』とアピールすることで利用者に安心してもらえます」と角専務は語る。

今後は、メインフレームからのシフトを視野に入れ、数年後にPRIMEQUESTへの移行作業を本格化させる考えだ。

お問い合わせ先

富士通コンタクトライン
0120-933-200

受付時間 9:00～17:30(土・日・祝日・年末年始を除く)

富士通株式会社

〒105-7123 東京都港区東新橋1-5-2
汐留シティセンター